

ユネスコスクール年次活動報告書

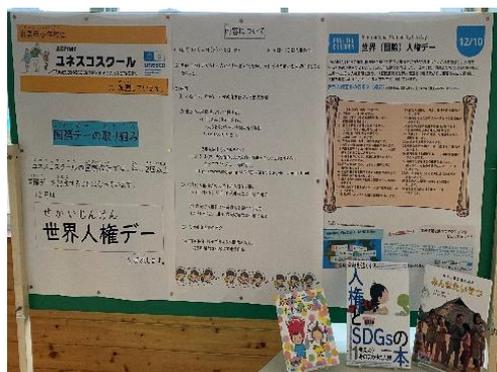
山陰海岸ジオパークエリアにある本校は、「やさしさとたくましさを持ち、共に学び 未来を拓く 岩美西小っ子の育成」を学校教育目標として、志をもってふるさとを愛する子を育てる教育としてESDを捉え、地域の方々と連携しながら教育活動を行っている。ユネスコスクールが重点的に取り組む3つの分野の学習を通して、「夢や目標に向かって自ら学ぶ子」「自分も友だちも大切にする子」「健康でたくましい子」「ふるさと岩美が大好きな子」の育成を目標としている。

①人権に関わる学習

「仲間と共に意欲的に取り組む子どもの育成～『できた』『わかった』を実感し、認め合う活動を通して～」を研究主題とし、主に算数科・道徳科を通して校内研究に取り組んだ。ペア学習やグループ学習を積極的に取り入れ、ホワイトボードや具体物を用いて友だちと対話をしながら学習できる環境づくりを行った。友だちの意見を受け入れたり、自分の意見を伝えたりする活動を通して、他者を信頼し尊重し合う仲間づくりに取り組んだ。



6年生は、鳥取県 BBS 連盟(更正保護ボランティア団体日本 BBS 連盟所属)との支援によりドイツとロシアの方から文化について話を聞くなどして、個人や社会が平和的に共存できるよう社会のあらゆるレベルでの人種、民主主義、異文化理解と尊重、平和と人間関係に触れる平和学習を行った。



全校で国際人権デーに取り組んだ。

1. 人権について知る 人権教育主任による話
2. 自分の人権感覚について振り返る
 - ・低学年 「ひとりひとりのぼうし」
一人ひとりのちがいを認め合う
 - ・3年以上 法務省の人権自己診断
～こんなときどうする～
3. 人権標語の紹介(岩美町人権教育推進協議会主催)
4. 人権作文特選と入選の作品の紹介
(人権標語と作文に全校児童と保護者が取り組んだ。その作品の紹介)

②環境教育や山陰海岸ジオパークに関する学習

4年児童は、山陰海岸ジオパーク拠点施設である鳥取県立海と大地の自然館学芸員をゲストティーチャーに、磯の観察を行い、大谷海岸の磯に生息する生き物についての学習を行った。海ごみの多さに気づき、海岸のごみ拾いを行ったり、環境保全を啓発する劇づくりに取り組んだりした。2年児童は、校外学習で同拠点施設の兵庫県香美町立海の文化館を訪れ、山陰海岸ジ

オパークの地形やそれを活かした暮らし、日本海に生息する魚について学習した。6年児童は、同拠点施設岩美町立渚交流館の指導員の支援でシーカヤックに乗って山陰海岸の清掃活動を行った。全校児童で地元大谷海岸で「海の学校」を実施し、地元ライフセーバーによる海の学習での命を守る安全指導や海水浴を行うことを通して、改めて山陰海岸の地質学的価値の素晴らしさや美しさを実感した。



「海を通した ESD」ともいえる海洋教育を通して、SDGs の様々なターゲットに考えを派生させ、世界規模の問題を自分の生活と結びつけて考える姿勢につながっている。児童の意識の変容としては、「自分の取るべき行動を視野を広げて考え直したり、具体的に考えたりする姿」、「周囲との協働の必要性を感じる姿」が見られた。

③食育に関する学習

下学年では、地域学校協働本部の支援で、山陰海岸ジオパークならではの地形である砂丘地を活用したさつまいも栽培やらっきょう栽培を行った。植物に直接触れたり、調理実習を行ったりすることを通して、植物の成長に興味関心をもち、食に対する感謝の気持ちや地域の方への感謝の心や地域おこしへの思いが生まれるきっかけとなった。

4年児童は、地域の宝を見つける総合的な学習の一環で、山陰特産の「板わかめ」づくりを本校区網代で体験した。地元のボランティア団体わかめ部や網代女性部の方々に指導していただきながら、オリジナルの板わかめを完成させた。実際に板わかめを食べたことがある児童は多くはなく、食文化を次の世代に伝えていくことの難しさを感じた。温暖化によりムラサキウニの大量発生によるわかめの食害もある。地域の大切な食文化や自然を残すために、この取り組みを今後も続けていきたい。

6年児童は地元の漁協女性部の方と魚食文化継承の取り組みとして、地元産赤ガレイを使った魚ハンバーグ作りを行い、海から受ける山陰海岸ジオパークの恩恵や地域の方への感謝の心を育むきっかけとなった。

また、地域の公民館や大谷生産組合の方々の協力で、全校児童と地域の方と一緒に地元生産米を使用したもちつきを行った。食への体験が広がるとともに、地域の方の温かさに触れさらに親くなる機会となった。





④言語に関する学習

英語に親しむ環境づくりとして、本校在籍のALTがイングリッシュボードを作成している。オリジナルがあふれる内容になっており、さらにアメリカの文化を知ってもらうことも大切な要素として含まれている。例えば、11月のテーマは感謝祭とし、アメリカやカナダのサンクスギビングは収穫の感謝祭であり、日本は勤労に感謝という内容で文化の違いがあるということをメッセージや写真から学ぶことができた。

一方で、言語の不平等について考える機会として、国際母語デーに取り組んだ。自分たちが普段使っている日本語の他に、英語は次に身近な言語である。読み聞かせや絵本の紹介を通して、様々な国の言語に触れたり、世界には他にも、もっとたくさんの言語があるということを知ったりするよい機会となった。よく知っている「スイミー」と「はらぺこあおむし」を、日本語・英語・韓国語・ポルトガル語・アラビア語で読み聞かせを行った。児童からは「英語以外の言語に触れることができた。」「スイミーの話は知っているので、言葉が違っててもわかる場所があった。」などの感想があった。言語にもいろいろな違いがあることを知り、お互いの違いを認め合うことの大切さについて考えるよい機会となった。

